IKARI

「毒を使わずに毒を消す」環境文化の創造に挑んだ55年の歩み

今回のパートナー企業　イカリ消毒株式会社様

テルウェル東日本が手がける事業の中には、さまざまなパートナー企業とのアライアンスのもとでお客様に提供しているものがあります。「BUSINESS NOW」のコーナーでは、そんなパートナー企業に取材して、事業をめぐる動向やビジネスのヒントを伺います。今回は、NTTビルの害虫防除など職場環境の安心・安全を支える衛生管理事業でテルウェル東日本とアライアンスを組む、イカリ消毒株式会社様にお話をお聞きしました。

イカリ消毒株式会社
代表取締役　会長
黒澤 眞次（まさつぐ）様

千葉港で事業をスタート 東京五輪が発展のきっかけに

「イカリ消毒のイカリは、船の錨のこと。55年前に千葉市の港で創業したというルーツを表しています」と語るのは、同社代表取締役会長の黒澤眞次様です。外国航路の船が多数出入りする港で、ゴキブリやネズミなどの防除に関わる事業を始めたのが1959年。5年後には東京オリンピック選手村の害虫駆除を受注し、「海から陸（おか）へ」進出を果たしました。

そして1970年。「定規模以上のビルに年2回の消毒を義務づける『ビル管理法』の施行を受け、テルウェル東日本の前身である電気通信共済会が、電電公社ビルの消毒をイカリ消毒様に依頼しました。「全国にある電電公社のビルに対応するため各地に新たな拠点を作ったことが、現在の当社の100カ所に及ぶ拠点ネットワークにつながっています」と同社代表取締役社長の黒澤敬様は話します。イカリ消毒様とテルウェル東日本の縁はたいへん古く深いのです。

「駆除から予防へ」を時代に先駆けて実践

有害生物の防除といえば、まず連想するのが殺虫剤などの化学薬品。しかしイカリ消毒様では、無薬・無影響をモットーに物理的（捕虫器など）・生物的（植物製剤など）な処理に早くから取り組んできました。「当社には〝毒を使わずに毒を消す〟という考え方があるのです」（黒澤敬社長）

例えば「Jライン」というシステムは、ネズミの習性を利用して専用パイプに誘い込んだのち、空気で一気に吸引捕獲し、冷凍して衛生的に処理するもの。高級飲食店も入る新宿駅近くのビルでは、このシステムを導入して約19年間、一度もネズミが侵入したことがないそうです。

イカリ消毒株式会社
代表取締役　社長
黒澤　敬（たかし）様

また「CXシステム」は、虫やネズミの発生状況をセンサーや監視カメラによりオンラインでリアルタイムにモニタリングし、問題発生時の迅速対応や、蓄積データに基づく効率的な予防を可能にします。

時代に先駆けてイカリ消毒様が掲げてきた「駆除から予防へ」という考え方は、現在では業界のスタンダードになっています。

社員1人平均7つの資格を持つエキスパート集団

そうしたイカリ消毒様の先見性・先進性を支えているのが、卓越した開発力です。企業の開発費が一般的に売上の5％程度といわれるところ、イカリ消毒様では売上の約10％を開発に充てているとのこと。そして、いくつもの研究施設で、優秀な人材が研究開発に携わっています。同社の社員は、いわばエキスパート集団。獣医師・薬剤師・樹木医・臭気判定士など有資格者を多数擁しているのが大きな強みです。

「異なる専門を持つ社員たちがさまざまな視点からディスカッションすると、新たな発想が生まれ、それが特許になり新商品になるのです」（黒澤眞次会長）

同社では社員に資格取得を奨励しており、社員1人平均7つ、全社で延べ4,500の資格を保有しているそうです。保有数の筆頭は、ほかならぬ黒澤眞次会長。国家資格・民間資格合わせて、その数82というから驚きます。

多様な視点と柔軟な発想から次々と生み出される商品・サービス。害虫駆除から始まったイカリ消毒様の事業は、今では食品や医薬品の衛生管理、規格・認証取得コンサルティング、各種検査・分析、文化財保護、防虫器材・衛生資材の製造販売など、安全・安心や健康に関わる幅広い領域をカバーするものになっています。

若い日の大事故の教訓から「社会への貢献」を決意

イカリ消毒様が資格を重視するようになったのには大きなきっかけがありました。創業4年目の1963年、作業中の社員のたばこから薬剤に引火して、戦後最大ともいわれるデパートの火災事故を引き起こしてしまったのです。事故後に知ったのは、自分たちの仕事には「危険物取扱主任者」の資格が必要だということ。そのとき黒澤眞次会長は、きちんと資格を取得して責任ある仕事をしていこうと誓ったそうです。

「デパートのオーナーに謝罪に行ったら、逆に『若いんだから二度と事故を起こさないように頑張りなさい』と励まされた。その大恩に応えるため、『安全』を通じた社会貢献が当社の使命であると考えて、事業に専念してきました」（黒澤眞次会長）

イカリ消毒様の目指す社会貢献とは、「環境文化の創造」。そのために、本業のビジネスにとどまらず、環境衛生に関する情報発信やセミナーなどの啓発活動、さらには「環境文化創造研究所」（囲み記事参照）の設立・運営などに幅広く取り組んでいます。

「人生で大切なのは、クリエーション・チャレンジ・パイオニアの『CCP精神』だというのが、社員にも常々言っている私の持論。100年企業を目指して挑戦を続けていきます」（黒澤敬社長）

「さまざまな事業領域を手がけ、有資格者・専門家も多いテルウェル東日本様とは、お互いにビジネスを作り出せるパートナーでありたいですね。お客様の安心・安全や健康のために、これからも共に歩んでいけたらと願っています」（黒澤眞次会長）

「ウイルス汚染物封じ込めセット」
ノロウイルスなどを含む吐瀉物等を迅速かつ衛生的に除去。飲食店などに常備するのがオススメだそうです。

『月刊クリンネス』
健康と環境を考える情報誌として1985年創刊。現在もお客様向けに毎月2万部発行されています。

「環境文化創造研究所」とは？

「一般財団法人環境文化創造研究所」は、イカリ消毒やグループ会社で構成されるイカリ環境事業グループの一員。理事長をイカリ消毒の黒澤眞次会長が務め、世界的な環境運動家レスター・ブラウン氏を名誉顧問に迎えて、「美しい街づくり」のための調査・研究、講演会、普及・啓発、支援等に取り組んでいます。

《主な活動》

◎環境情報誌の発行
お客様向けの月刊情報誌『クリンネス』や、より専門的なオピニオン誌『CLEAN LIFE』などによる環境意識啓発。

◎文化財保護活動
博物館・美術館などの収蔵品を適切に保存管理するためのIPM（総合的有害生物管理）のコンサルティングやサポート。

◎環境保全活動
「トキを指標種とした生物多様性保全活動」「ヤマビルのいない里山づくり」など。

◎さくら・ふるさと街づくり運動
1964年より日本をはじめ世界各国に延べ30万本以上の桜の苗木を寄贈。

◎レスター・ブラウン地球環境運動
レスター・ブラウン氏の提言の普及促進に向けた、出版や講演会等の支援。

藤岡渡良瀬運動公園（栃木県）に植樹した桜並木

イカリ消毒株式会社

イカリ消毒様が企業理念に掲げる「LCecosys」（LCエコシス）。"LC" には「ライフクリエーション（望ましい生き方の創造）」と「ライフサイクル（生態系におけるバランスの取れた物質循環）」の2つの意味が、また "ecosys" には「環境についてグローバルに考え、エコロジカルで、高品質な環境保障システムを提案したい」という願いが込められています。

●社名　：イカリ消毒株式会社
●本社所在地：東京都新宿区新宿4-3-25
●資本金　：1億4,448万円
●設立年月日：1959年6月26日
●従業員数　：751名（2013年12月31日現在）
●主な事業　：総合衛生管理（有害生物防除、食品衛生管理・医薬品衛生管理・微生物制御、文化財保護、コンサルティング、検査・分析など）
●公式サイト：https://www.ikari.co.jp/

「CXシステム」の概要